

東京都稲城市平尾の鈴木家文書「村のしるべ拾遺鈔」の紹介

皆川 義孝*
下川 雅弘*

一 はじめに

鈴木家文書は、現在の東京都稲城市平尾において、江戸時代には平尾村の名主を勤め、明治から大正期にも平尾地域の政治、経済、学校運営、農会、青年会などの公的な場面で活躍するなど、江戸時代から近代において同地域の政治・経済の中心的な役割を果たしてきた旧家の文書といえる。

江戸時代の文書としては、天正一八年（一五九〇）から天明八年（一七八八）までの合計二二点が確認できるが、その中には宝暦二年（一七五二）「平尾村御仕置五人組帳」、天明五年（一七八五）「村方引継ぎ諸帳面受取控帳」、宝暦一三年（一七六三）「平尾村全図」などの文書がある。次いで、明治以降の近代文書としては六八点がある。

明治元年（一八六八）から昭和六年（一九三一）までに作成された文書で、その中には当主の鈴木静輔・静蔵の父子二代にわたる明治元年から大正五年（一九一六）までの「農事日記」（四二点）、今回、翻刻紹介する鈴木静輔により編纂された「村のしるべ拾遺鈔」などがある。「村のしるべ拾遺鈔」は、平尾村の沿革、江戸時代の旧高、明治の地租改正、平尾の神社、地名、塚、郷蔵、道路、消防などからなる。また冒頭の凡例によれば、編者の鈴木静輔は、本資料の編纂にあたり、平尾に残る江戸時代の名寄帳、明治九年（一八七六）の地租改正原簿、村絵図などを閲覧し、慶長・元和年間頃より昭和初年までの歴史的な事実や、平尾の伝説や古老から聞いた話も含め編纂された村史である。編者の鈴木は、本資料の編纂までに、明治四〇年（一九〇七）から大正一〇年（一九二一）の「稲城市平尾道路実測簿」と、大正八年

(一九一九)の平尾の杉山神社への同村日吉神社・八坂神社の合祀を記した「村鑑」、平尾の御座松塚、杉山神社・八坂神社・日吉神社境内、郷蔵の挿絵、杉山神社・日吉神社の棟札を写した「村鑑神社部」などを編纂し、昭和五年(一九三〇)には、本資料の草稿となる「村鑑拾遺鈔稿」を編纂している。

このように、編者の鈴木は、「村のしるべ拾遺鈔」の編纂において、平尾に伝わる古文書や絵図などを丹念に調査し、さらに、その前身となるいくつかの村鑑や草稿などを編纂していた。特に、村に伝わる古文書や絵図などを調査する姿勢は、現在、各地で発刊されている自治体史などの郷土史の編纂方針にも通じるものである。「村のしるべ拾遺鈔」が編纂された当時は、まだ現在のような郷土史編纂の方法論が確立されていない時代であった。こうした中、編者の鈴木は自らの住む平尾村の歴史を後世に正しく伝えるため、現代的な郷土史編纂を実践していたといえる。すなわち、「村のしるべ拾遺鈔」は現代の郷土史の先駆的な存在としても、見ることができると大変貴重な編纂資料といえる。

このように、現代の郷土史編纂の先駆的な存在としても、大変価値が高い「村のしるべ拾遺鈔」であるが、従来『稲城市史』で一部が翻刻紹介される程度でしか活用されてこなかった。そこで、今回全文を翻刻紹介し、稲城市平尾の歴史に新たな視点を提示するだけでなく、郷土史編纂の先駆的な事例として「村のしるべ拾遺鈔」を紹介していきたい。

なお、翻刻紹介にあたり、漢字はすべて常用漢字に統一したこと。

また紙面の関係により、挿絵などは省略させていただいたことをお断りしておく。

二 「村のしるべ拾遺鈔」の紹介

――表紙――

村のしるべ 拾遺鈔

鈴木蔵書〇印

――

――内表紙――

村のしるべ 拾遺鈔

桂堂遺稿〇印

――

〇例言

一、此遺稿ハ当平尾の古名寄帳及明治九年地租改正元簿、并ニ村絵図の中に洩れたる諸般の事柄を書きたるものなり

一、此遺稿は慶長・元和の頃より昭和の初年に至る確証あるもの、又古来よりの伝説、古老の口碑等見聞なしたる事を書きたるものにして、編者の虚説妄語等毫もなし

一、編者ハ無学短才、且老耄なりたれば、年代の順序を欠き、又誤字・脱字、又文意の調わさるふし多からん、見る人よろしく御賢察を乞ふ

〇沿革

天正ノ末徳川氏東遷ノ後、同幕府ノ直轄領ナル事年久シ、其後幕府大

編者□印

政ヲ奉還スルニ当リ、政令此ニ革リ廢藩置縣ノ制トナルヤ、多摩郡ハ明治元年品川及葦山二県ニ分属シ、明治四年更ラニ入間・神奈川二県ノ所轄トナリ、更ラニ明治五年全部神奈川縣ニ編入セラレ、次テ明治十一年十一月多摩ヲ分轄シテ東西南北ノ四郡トナシタルニ始マリ、南多摩ト称セラレ、新タニ郡役所ヲ八王子ニ開設セラル、ニ至ル、是即チ南多摩ノ起原ナリ、其後明治二十六年四月法律第拾二号ニヨリ本郡更ラニ東京府ニ編入セラレ、以テ現今ニ至ル、而シテ明治二十二年町村制ヲ布カレ、元ノ村名ヲ大字トナシ（東長沼、大丸、矢ノ口、百村、坂浜、平尾）ヲ併合シテ稲城村ト号ケリ、今仍ホ之ニ因ル

昭和六年二月 記ス

稲城村平尾

（武蔵国多摩郡平尾村略図）

○平尾旧高

文久三亥年

徳川幕府 江川太郎左衛門支配所

武蔵国多摩郡平尾村

平尾惣高百九拾壹石三斗壹升七合

一、此反別參拾五町壹反五畝歩半

内訳

一、田高九拾壹石三斗六升六合

此反別拾町七反三畝貳拾四歩半

一、畑高九拾九石九斗五升壹合

此反別貳拾四町四反壹畝六歩

内

一、上田三町壹反壹畝拾四歩半

但本免反米 六斗三升八合

石盛 十貳

此高三拾七石三斗七升八合

一、中田四町壹反貳畝拾貳歩半

但本免反米 四斗貳升貳合

石盛 八

此高三拾貳石九斗九升三合

一、下田三町四反九畝貳拾七歩半

但本免反米 三斗貳升壹合

石盛 六

此高貳拾石九斗九升五合

一、上畑壹町壹反五畝拾貳歩

但取永 貳百拾四文壹分三厘

石モリ 七

此高八石〇七升八合

一、中畑六町六反貳畝拾四歩半

但取永 百五拾三文貳分三厘

石モリ 五

此高三拾三石壹斗貳升四合

一、下畑拾五町三反六畝貳拾七歩

但取永 九拾貳文三分四厘

此高四拾六石壹斗〇七合

但取永 三百〇五文五分三厘

此高拾貳石六斗四升貳合

取合 米四拾八石六斗五升八合

永三拾貫七百九拾九文九分

秣場代金

永七拾八文五分（但反永五文）

一、秣場 反別壹町五反七畝四步

一、山林反別拾四町壹反○三步（但反永十文）

○明治九年 管内 等級合当表 但朱書 管内等級

地租改正 村内 墨書 村内等級

多田五丙六丙八甲九乙十一甲十二丙

摩
一
二
三
四
五
六

郡 畑 四丙 五丙 六丙 八甲 九丙 十一乙

平
一
二
三
四
五
六

尾山五六一七八九

村林
一
二
三
四
五

宅地 七等甲 四八五

雜地

宅地
藪
萱野
芝地

○明治四拾三年十一月稻城村宅地賃貸借等級表

二十十九十八十七十六十五十四十三十二十一

長沼 ○ ○ ○ 但賃貸借

大丸 ○ ○ ○ 価格へ三マ

矢ノ口○ ○ ○ カケル也

坂浜 ○ ○ ○ ○ 坪三錢八

百村 ○ ○ ○ 地価九十円

平尾 ○ 二錢八十六円

地租八二ヶ半也

錢厘分

3 2 8 2 6 2 4 2 2 2 賃貸借価格壹坪二付年

○参考 隣接村々ノ等級表

村名 二十九十八十七十六十五十四十三十二

細山 ○ ○ ○ ○ 宅

金程 ○ 地

高石 ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○

村名

上麻生 ○ ○ ○ ○ ○

下麻生 ○ ○ ○ ○

王禪寺 ○ ○ ○ ○ ○ ○

村名 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九

五力田 ○ ○

古沢 ○ ○ ○
万福寺 ○ ○ ○

片平 ○ ○ ○

栗木 ○ ○ ○

黒川 ○ ○ ○

岡上 ○ ○ ○

早野 ○ ○ ○

○明治九年地租改正

神奈川県第八大区九小区

武蔵国多摩郡平尾村

一、田反別拾三町七反三畝五歩

此地価金五千四百貳拾六円九拾銭六厘

内訳

一、村内壹等田反別壹反壹畝六歩

此地価金七拾五円九拾九銭三厘

但反金六十七円八拾五銭壹厘

一、全貳等田反別七反三畝貳拾四歩

此地価金四百五拾貳円貳拾八銭三厘

但反金六拾壹円貳拾八銭五厘

一、全三等田反別壹町六反九畝○九歩

此地価金八百八拾九円三拾三銭九厘

但反金五拾貳円五拾三銭

一、全四等田反別四町四反七畝拾四歩

此地価金千九百五拾八円八拾銭

但反金四拾三円七拾七銭五厘

一、全五等田反別五町三反○貳拾七歩

此地価金千七百四拾三円○三銭三厘

但反金三拾貳円八拾三銭壹厘

一、全六等田反別壹町四反○拾五歩

此地価金三百○七円五拾壹銭九厘

但反金貳拾壹円八拾八銭八厘

一、畑反別四拾町三反九畝○壹歩

此地価金四千九百八拾貳円七拾九銭四厘

内訳

一、村内一等畑反別七反壹畝拾四歩

此地価金百六拾四円七拾七銭

但反金貳拾三円○五銭六厘

一、全貳等畑反別四反壹畝貳拾五歩

此地価金八拾七円拾貳銭壹厘

但反金貳拾円八拾貳銭五厘

一、全三等畑反別壹町七反三畝四歩

此地価金三百貳拾壹円九拾貳銭五厘

但反金拾八円五拾九銭五厘

一、全四等畑反別七町九反壹畝○貳歩

此地価金千貳百三拾五円五拾四銭七厘

但反金拾五円六拾壹銭九厘

一、全五等畑反別式拾町壹反八畝〇五歩

此地価金貳千四百〇壹円六拾壹錢八厘

但反金拾壹円九拾錢

一、全六等畑反別九町四反三畝拾四歩

此地価金七百七拾壹円八拾五錢

但反金八円拾八錢壹厘

一、宅地反別三町六反六畝拾貳歩

此地価金八百九拾七円六拾八錢

但反金貳拾四円五拾錢

一、山林反別四拾四町八反五畝貳拾三歩

此地価金五百五拾五円七拾八錢五厘

但反金八等毎二分カ

内訳

一、全壹等山林反別七反四畝貳拾九歩

此地価金拾四円九拾九錢三厘

但反金貳円

一、全貳等山林反別八町三反八畝貳拾六歩

此地価金百三拾四円貳拾壹錢八厘

但反金壹円六拾錢

一、全三等山林反別拾八町〇六畝貳拾六歩

此地価金貳百三拾四円八拾九錢六厘

但反金壹円三拾錢

一、全四等山林反別拾五町貳反三畝拾四歩

此地価金百五拾貳円三拾五錢

但反金壹円

一、全五等山林反別式町四反壹畝拾八歩

此地価金拾九円三拾貳錢八厘

但反金八拾錢

一、藪反別四反五畝貳拾九歩 但反金壹円五拾錢

此地価金六円八拾九錢五厘

一、萱野反別四反〇拾七歩 但反金壹円四拾錢

此地価金五円六拾七錢五厘

一、芝地反別五町九反四畝〇貳歩 但反金貳拾五錢

此地価金拾四円八拾六錢三厘

一、芝地荒地五畝〇七歩

此地価金拾三錢壹厘（明治九年欠崩レ、全年ヨリ四ヶ年季ニ

テ、全拾貳年起返リ、芝地ノ部ニ編入

ス）

一、墓地貳反九畝貳拾六歩（無稅地）

但平尾拾九ヶ所

一、社地三反九畝〇四歩（第一種官有地）

一、廢寺跡壹反七畝〇八歩（元官有地）後々、民有地トナル）

（但シ、此地ハ元宝泉寺跡ニテ明治廿四年御料地ニ編入ス、全三

拾壹年宮内省告示ニ依リ払下ケ許可）

字壹号千三百八拾三番 旧字滝尻

一、芝地拾七歩 共同出取場

此地価金貳錢

字全号千三百八拾七番 全斷

一、芝地拾九歩 道ヨリ上へ

此地価金貳錢

字三号千三百八拾貳番 下平尾

一、芝地九歩 地蔵尊ノ敷地

此地価金壹錢

○右三筆平尾全区ノ共有地

○旧寺谷津官林

字拾貳号千貳百九拾貳番イ号

一、山林反別壹反五畝拾歩 旧寺谷津官林

字全号全番ロ号

一、山林反別四畝貳拾歩

右地所ハ明治拾八年三月和歌山士族松本辰敬の所有にて、全年全月平尾に來り売却したくいふにより、村内協議の上買請けたり

(其地代金貳拾三円也)(鈴木昶輔、鈴木静輔の二氏代表して登記

をなす)

○其共有人名左ニ記す

黒田案五郎 黒田 磯吉 黒田 嘉蔵

粕谷 精吉 宮田丑太郎 宮田八十八

馬場 作郎 馬場定五郎 馬場 政八

馬場庄五郎 馬場 市郎 鈴木 昶輔

鈴木 静輔 鈴木昇兵エ 鈴木 弥八

鈴木那五郎 番場 喜六 白井久次郎

白井吉五郎 番場 森三 番場七五三藏

白井熊次郎 白井錠次郎 白井信次郎

白井文次郎 石井 広吉 石井忠次郎

石井松五郎 石井良之助 石井喜太郎

石井 善郎 石井伝次郎 石井郡次郎

石井七五郎 石井助左エ門 石井伊之助

合計三拾六名

明治拾八年三月

○神社之部

字拾号千百八拾九番

一、境内反別貳反五畝貳拾歩 杉山神社

字拾号千〇八拾八番

一、境内反別四畝貳拾歩 八坂神社

字七号七百貳拾八番

一、境内反別八畝貳拾四歩 日吉神社

○村社 杉山神社

五十猛尊

一、祭神 日本武尊

橘媛尊

鎮座ハ長祿ノ頃ト云伝フ、サレト其年月未詳、延徳年間社殿ヲ再営シ、錢丸ト称スル鏡ヲ神体トシテ奉祀セシコトアリ、其鏡ハ銅物ニテ円径九寸六分、表ニ不動ノ像ヲ鑄出シ、裏ニ武州児玉郡金屋村住人中村五

郎左エ門家吉敬白、延徳二年壬午五月五日ト見エタリ、之即チ錢丸ノ鏡ナリ、然ルニ天保年中賊ノ盜ミ去ル所トナリ、爾来百方搜索スト雖モ得ルコト能ハス、安政年間社殿造営ノ事アリ、一説ニ本社ヲ以テ武藏ノ総社ニ合祭セラル、六所神社ノ一所ナル杉山神社トモ云伝フ、其ハ古来本村ハ都筑郡ナルヲ、近世ニ至リテ郷界變更ノ為メ多摩郡ニ属セシナリ、然ルニ杉山神社ノ本社ハ都筑郡トノミニテ、未タ其所在ヲ詳ニセス、今尚考証中ニ属ス、依テ茲ニ疑ヲ存ス

因ニ云フ、不動ノ像ヲ鑄出セルモノヲ神体トセシハ、別当宝泉寺本地仏ノ称号ニ準拠セシメントセシモノナラン

一、社殿 間口二間

奥行三間

一、境内坪数七百七拾坪 官有地第一種

明治三十三年十月

社掌

福島 弥繼 印

氏子総代人

鈴木 静輔 印

右、書上ノ写（又ハ武藏風土記稿参照スベシ）

○杉山神社境内末社

八幡太神

祭神 応神天皇

由緒 未詳

社殿 間口奥行一間ツ、

全 秋葉神社

祭神 天軻遇突智命

由緒 鎮座ノ年月未詳、往古本社杉山神社ト合殿ナリシヲ、安永八年十一月別ニ社殿ヲ建立シテ末社トナシタリ

社殿 間口奥行共三間

一、杉山神社 什器ハ種々アリ、本史ニ記載シアリ、故ニ略ス

○無格社

八坂神社

祭神 素戔鳴尊

菅原道実

合祀 黒沢奎之助

社殿 間口九尺

奥行式間三尺

境内坪数 百四拾坪 官有地第一種

外、詳細ハ本史ニアリ

日吉神社

祭神 猿田彦命

由緒 未詳

社殿 間口九尺

奥行二間

境内坪数 式百六拾坪 官有地第一種

信徒三十拾九戸

○宝泉寺

本堂 間口八間、奥行五間、萱葺ナリ、正面ニ本尊、其他ノ佛像安置シ、寺庭ノ回りニハ松・杉・楓ノ大樹木繁茂ナシ居タリ

由来 陽谷山大日院宝泉寺ハ隣村坂浜岩船山高勝寺ノ末寺ナリ、建立年月詳カナラス、按スルニ鎮守杉山神社ノ別当、又平尾ノ祈願寺トシテ分寺セラレシハ、最モ古キ年代ナラント推考セラル、然レ共無檀家無財産ナレハ衰微セリ、代ハ移リテ明治維新トナリ神奈川県管轄トナル、明治六年三月其筋ヨリノ布達ニ依リ廃寺トナリタルナリ

本尊 大日如来

一説ニ此本尊ハ大日如来ニテ、東京府下荏原郡玉川村奥沢浄真寺（九品仏）ヨリ移シタルモノニシテ、慶長年代ノ作ナリト云フ、今尚仮堂ニ安置シアリ（其他ニ不動・観音ノ佛像アリ）

○観音堂（宝泉寺西南ニアリ）

一、由来 宝永二年ノ造立ニテ、堂ハ二間四方回り椽アリテ萱葺ナリ、中三厨子アリ、観世音ヲ安置ス、其伝説ニヨレハ行基菩薩ノ御作ナリト云フ、稲毛三十三所ノ観音ニ加ヘアリタレ共、明治六年本堂ト共ニ廢堂トナシタル故ニ除カル

御詠歌 へよろづ代のまことをこ、にちかひなは、たからのいづみ汲みしなるらん

念仏 ○陽谷山観世音

へきめうてうらいひらをなる、陽谷さんのいただきに、ぎようぎぼさつのおんさゝで、ゆらいたゞしきくわんぜおん、しんこういたせし人びとハ、一にふくとく二にじゆめう、三にあ

いきう四に智恵、五つにかなんをのがるべし、六つには家内安全を、まもらせ給ふて七つには、はるの花さく花ぶさを、守りとなして身にそへば、しよ病しよなんをのがるべし、あらありがたきくわんぜおん、くわんぜおん

○宝泉寺什器

一、護摩道具一式 一、キン一個 一、半鐘一個 一、鰐口三個、但シ（杉山明神、山王宮、観音堂）廃具ナリ

○宝泉寺遺物

梅房尼 梅房尼ハ加賀国ノ産、嘉永ノ初年修行ノ為メ回国ナシ、平尾ニ来リ足ヲ止ム後、宝泉寺ニ入り住居ス、明治六年廢寺後、弟子智開ト共ニ草庵ヲ結ヒテ住居ス

智開尼 大正十四年八月二十日死亡ス

墓碑二曰ク

智開尼ハ幼名ハナ、南多摩郡鶴川村大藏中溝家ニ生ル、年五才ニシテ当区宝泉寺僧梅房尼ノ徒弟トナリテ養育セラル、明治六年廢寺トナルニ及テ師ト共ニ草庵ヲ結ヒテ住居ス、師ノ没後、本尊ニ奉仕シテ怠ラス、大正十四年八月二十日病没ス、年七十四、平尾区建之

○一、宝泉寺廢跡地

字拾号千百八拾七番

一、山林沓反七畝八歩

此地ハ廢寺跡にて明治六年廢寺後、県庁へ上知となり、其後明治二十四年に至り、御料地に編入せられ度々検分ありしが、全三拾壹年

宮内省告示により払下げ許可となりて、平尾全区の共有地となり、有租地となしたる也、尋^ツいて町村制を布かれ六区字を併合して稲城村となす、其時村の共有地に編入せらる、依て大正拾四年杉山神社の社殿を改築して無格社を合祀し、村の共進神社となし、社格も昇格したるにより、此地を杉山神社の財産とせんと稲城村会に提出し、元別当宝泉寺跡なる故の理由を述て直に決せり、其決議書を爰に写す

○決議^(朱書)(決議書アリ)

左記部落有財産ヲ稲城村大字平尾一、一八九番地、鎮座村社杉山神社所有財産ニ無償讓^{ユツリ}渡スルコトヲ決議ス

記

(稲城村大字平尾部落有財産

稲城村大字平尾字十号一、一八七番地

一、山林壹反七畝八歩

大正十四年二月廿六日提出 稲城村長榎本儀兵衛)

○一、平尾爆竹場

(此爆竹ハ左義長○どんど○又ハ吉書揚○さいの神ともいふ)

正月拾四日の夕、門松御かざり、煤竹古御祓等を集めて、燃やせり、吉書を掲げる、高かく上りしものは上達の兆なりといふ、又葩餅・団子等を其火に焼て食ふ者は其年悪疫を病まぬといひ、又燃え残りの竹木等を家の門口に建れハ盜火の難^{ナシ}をのがる、といふ、今は官禁により止む

(場所) ○上平尾 札ノ辻

○下平尾 地藏前

○平尾ノ小字

宝暦元年書上	明治九年地租改正二	全旧字	全新字号
ケタル旧字	定マリタル新字号		
一平嶽	第拾三号	一御座松	第拾壹号
一大原		一大向	
一寺谷津	第拾二号	一駄木場	第拾号
一燒堺		後口原	
一宝殿		一丸山	
一貉谷			
一後久保	第九号	一長畑	第八号
一天台		一新地前	
一日向根		一丹後谷	
		一陣開田	
全	全	全	全
一坪田	第七号	一南谷	第六号
一田島		一前松場	
一山王下		一中松場	
一馬場耕地			
一原			
一台ノ前	第四号	一向松場	第五号
一山王前		一入定塚	
一稻荷林		一十三本塚	
一下ノ川	第三号	一谷向山	第二号

一 田島

一 入ノ谷戸

一 上ノ台

一日向山

一 橋戸

第壹号

一 下田

一 滝尻

○山之部

一、平嶽 平嶽ハ平尾の西端の高き所をいふ（栗木・黒川・坂浜・平

尾）の村界なり、西南に伊豆の山々、箱根・丹沢両際山、

又西北には御嶽・大嶽及秩父の諸山見へて、又快晴の日に

は房総の諸山、常陸の筑波山なども見へて、平尾第一の高

地なり

一、陽谷山 陽谷山は元宝泉寺の上より西へ杉山神社の裏山続きをい

ふ、宝泉寺に陽谷の山号これなり

一、金桂山 金桂山は日向根の上の山より、丹後谷の西方に当る山脈

をいふ、元禄年間、平尾に検地の御縄入の事あり、其時検

査吏の命名なしたる字なりと云ひ伝ふ

一、丸山 丸山は元ト八坂神社の在りし山をいふ、往古は地頭林の

一ヶ所なりと伝ふ、下に丸山坂、丸山橋あるも、この故な

り

一、陣開山 陣開山は字長畑より丹後谷上へ女夫坂に至る迄の山脈を

いふ、此陣開といふことに伝説なれとたしかならずは爰に

略す

○橋之部

一、丸山橋 字第十号ニあり

一、坪田橋 字第七号ニあり、松場坂下

一、山王橋 字三号ニあり、下ノ川ニ架する橋也

一、稻生橋 字一号ト三号ノ間にありて、稻城村と生田村の村界なれ

ば号く

一、下田橋 字一号、旧字下田ナレは名つく、昭和三年三月新道を造

る時、始めて架けたるなり

○坂之部

一、丸山坂 字十号丸山の下也

一、松場坂 字七号より松場へ登る坂也

一、御座松坂 字十一号、栗木ノ通する坂をいふ

一、長坂 字十三号、旧字大原へ通る坂をいふ

一、女夫坂 字八号、丹後谷ノ坂なり、道坂二筋なる故ニ女夫といふ

なり、坂浜に堺いす

谷ノ部

一、下モノ谷 字二号

一、自照院谷 字四号

一、丹後谷 字八号

一、上ミ谷 字十号

一、寺谷 字十二号

一、陽谷 字六号

一、谿谷 字十号

○平尾村ニ住居スル人民宅地ノ番及人名

明治十參年一月調

宅地々番	人名	宅地々番	人名
千百八拾九番	杉山神社	五百拾貳番	黒田尚雄
千百九十五番	黒田格次郎	千二百拾番	黒田甚藏
	〔後筆〕 「誠三郎」		
千百七十番	黒田源太郎	千百五拾五番	宮田五右衛門
	〔後筆〕 「勘一」		
千百三拾四番	粕谷勝右衛門	千百七十七番	粕谷董吉
	〔後筆〕 「喜一」		
千〇八拾貳番	宮田八十八	千〇八拾四番	馬場作郎
	〔後筆〕 「儀吉」		
千〇八拾八番	八坂神社	千〇四拾九番	馬場定五郎
千〇五拾壹番	馬場政八	千〇五拾三番	馬場庄五郎
	〔後筆〕 「政之助」		
千〇三拾五番	鈴木邦五郎	千〇八拾九番	鈴木初五郎
千〇二拾二番	馬場市郎	九百六拾八番	鈴木昶輔
九百六拾貳番	鈴木靜輔	九百五拾六番	鈴木昇兵エ
九百二十番	鈴木弥八	六百二拾八番	番場喜六
六百貳拾三番	白井政五郎	六百貳拾番	白井吉五郎
三百八拾九番	番場森三	三百八拾八番	番場直次郎
七百貳拾八番	日吉神社	三百四拾七番	白井六右衛門
三百四拾九番	白井次郎左衛門	三百三拾壹番	白井信次郎
三百拾八番	白井権右衛門	拾壹番	石井忠次郎

百三十七番	石井広吉	百四十七番	石井平右衛門
百四拾九番	石井衆助	百七十番	石井仙藏
百六拾八番	石井善郎	百七拾六番	石井伝次郎
百七拾八番	石井八右衛門	貳百拾四番	石井伊助
貳百〇八番	石井助左エ門	百九拾八番	石井伊兵衛
○明治拾三年ヨリ昭和五年ニ至ル間創立ノ「家」〔朱書〕番地人名			
千〇五拾七番	馬場茂助	千〇六拾五番	馬場直藏
千〇貳拾壹番	馬場幸助	千〇四十壹番	粕谷高藏
九百六拾四番	鈴木脩三	三百貳拾七番	白井安
四百貳拾七番	石井周助	千百七拾三番	宮田熊吉
三百三拾四番	白井規矩藏		

○平尾長百姓

長百姓 黒田彦八 此五戸ハ長百姓ト称シ、村造リナリト云フ、

鈴木清藏 最モ古キ旧家ナリ、鎮守杉山神社ノ棟札ニ

馬場市兵エ 明ラカナリ

白井権右エ門

石井善右エ門

○平尾旧領主

黒沢李之助

領主黒沢李之助は徳川の旗本にて、元和年代より寛延三に至る迄、凡百三拾年間平尾の領主たり、上納の年貢ハ米納にして当所に倉庫を造り、米及薪炭等貯へ置たり、然るに寛延三年故ありて家名領土を其筋より没収せらる故に家族離散して、李之助は晩年に至り旧領主の縁故

を以て平尾に來り、助力を乞ふ、依つて土谷の奥に些細なる家屋を造り隠居なしたり、村の者井を掘り飲用水に用ゆ（今尚山井戸と称する是なり、又宝殿といふも此時より始まるといふ）、又奎之助大に老衰して病没す、よつて其柩を元ハ地頭林ト称したる山上に葬る（今の丸山）、其塚上へ松樹を植へたり、後に一小祠を営み、其靈を祀り黒沢天神と尊稱す、紀念の松は大樹となりたるも、安政三年八月の大風に倒るといひ伝ふ

○（片平修広寺ニ安置シアル黒沢奎之助ノ祖先ノ位牌ノ写）

元和四戊午歲正月廿日

參久院殿万溪休罷居士

寛永十五戊寅歲正月十九日

代功院殿奕窓妙昌大姉

孝曾孫加藤長三郎藤原定能謹建之

定能者

実休罷居士、俗名黒沢治左衛門尉、安倍重久之令子、瑞川院殿祥山秀峯居士、俗名黒沢奎助安倍定幸、其子陽仙院殿一桃宗見居士、俗名黒沢治郎兵衛尉、安倍定伯之次男也、従父弟加藤正矩無子故、養安能後子、因姓改藤原、于時享保二丁酉年正月二十日、重久当回之遠忌、其玄孫黒沢兵之助安倍定紀、於武州夏菟山修広寺修法事、仍為曾祖父母奉寄進、名牌一基記

領収書

修広禪寺

右位牌為永代安置、本堂側戸式拾本寄附ス

平尾村

鈴木清藏 殿

（但、修広寺ノ領収書ノ写今尚存ス）

○旧地頭林

五ヶ所

一、旧字丸山 字拾号千〇八拾八番地八坂神社跡付近

一、旧字天台 字九号千〇二拾貳番地

一、旧字瞽女山 字七号五百七拾貳番地

一、旧字稻荷林 字四号四百〇九番地付近

一、旧字寺谷津 字拾貳号千貳百六拾貳番地イロ号、元官林

○旧地頭藏屋敷

一、藏居敷 但納米ヲ積置タル倉庫ナリ、字九号九百九拾九番地藏屋

敷跡也

○平尾古水帳紛失之事

一、古水帳 古水帳ハ元禄年中田畑山林居屋敷等御繩入の元簿にして、

享保二十年の頃まで用ひ來りし水帳なり、然るに其節平尾に住居せる野田吉右エ門なる者ありて、日常不行跡のミならず、時事村等騷擾を起し、其乱暴言語に絶たり、依て領主に其行為を訴ふたる故へ、所払ひ仰せ付らる、其仇なるか、水帳を盗取して行衛を晦ませり、其後ハ田畑名寄帳を作成して用ゆといふ、因にしろす、吉右衛門ハ後に本町田村平本家に入り一戸を拵へたりといふ、參考として吉右衛門所払ひ証を左に記す

○覚

一、当七月吉右衛門不行跡ニ付所払被仰付、依之吉右衛門所持之屋敷并二畑共二九畝歩之処、其方へ永々御預ケ被下処也、為御貢米壹斗五升宛、其外役掛り等年々可相納者也、仍テ如件

享保二十乙卯年八月二十日

黒沢奎助内

馬場美幾右衛門○印

平尾村名主

鈴木五郎右衛門殿

○徳川直轄

寛延三年十二月徳川直轄となり天領といふ、代官を定めて支配なさしむ、宝暦元年田畑坪検査ありて年貢定まる、依て代官の支配所となる

代官

伊奈半左衛門

中村八太夫

野口与兵衛

辻六郎左エ門

江川太郎左エ門

但田ハ米納、畑山林秣場ハ永納となる、平尾は粗米なるを以て八王子千人扶持として八王子御用商人布屋権三郎（米問屋なり）の倉庫へ納入せしとあり（但証なり）

明治九年写

○御座松

（御座松の挿絵）

静輔写□印

○郷藏

天明三年ノ創立ニシテ豊作ノ年粃粟稗等ヲ貯藏シ、凶作ノ時貧困者ニ分与スル穀物貯藏庫ナリ

明治二年廢除ス

（郷藏の挿絵） 建坪六坪 二間二三間

静輔写□印

明治改正ノ三百八十八番地ノ北方ニアリタリ

○平尾名勝

一、御座松塚（図ハ村のしるべ第一巻にしるす）

御座松塚ハ周圍拾貳間三尺、高さ貳間余ありて塚上に松の大樹あり、回り拾壹尺余、六七尺登りて二股に別かれ両幹ともに劣らず高く、枝は八方に広かりて地につく、傍らの道を通行するもの村の名より松の名を知るもの多し、当地の名物といふ、然るに数百の年月を経たれば、根元朽ちて洞穴ありて大蜂の巢を造りしことなどあり、故に明治六年二月七日ノ大雪ニて倒る、其後塚は小さくなりて、今ハ形ちを存するのミ（塚ハ今尚持ハ村也）

一、由緒

一説 一、御座松塚は往古天喜年中八幡太郎義家公、奥州征伐の時、御通行の道々へ紀念の為め樹木御手植のことありとの折、御手植へありし松なりといふ伝説あり

二説 一、又一説にいふ、正慶二年新田義貞、鎌倉幕府攻略の時、

北条勢と分倍川原に於て三日間二亘る激戦あり、鎌倉軍破れて敗走す、其敗將平尾に來りて死亡す、其將士を埋めて塚の上に松を植へたるなりと云伝ふ、又坂浜に馬塚あり、鎧墳あり、総合するに第一説より二説信ならんか

○小字ノ由来

一、字坪田 字坪田庄田ハ元禄年中平尾に田畑の検地縄入の事ありて、其縄入れの第一着なり、其の故に庄田の名あり、又續きて縄入れの地を坪田と稱へたりといふ、字田島のところ迄を坪田といふ

一、十三本塚 十三本塚は平尾と南村片平村・古沢村との村界定かななラす時二堺論あり（其頃ハ皆秣場ナリ）、各村の地頭困却して徳川の幕府に訴ふ、依りて奉行出頭して其地を檢査して裁決す、其時奉行役吏、其堺に杭を打たす、杭を中真として塚を築かしむ、此數十三なり、故に十三本塚といふ（今尚其図面、其他の証存す）、貞享三寅歲トアリ

一、入定塚 入定塚ハ一説にいふ、鎌倉幕府没落の頃、鎌倉の或寺の僧平尾に來り潜伏す、其僧の入定なしたりといふ、古老の口碑に伝ふ、去れとも其信偽は知らず

一、御蔵 天明三年の建設にして豊作の年粃粟稗等を貯蔵し、凶作の時貧困者に分与する穀物貯蔵庫なり、明治二年廢除す（但建坪六坪二間三間ナリ）、其頃ハ除地ナリ（今字七号六百廿六番地）

一、丹後谷 此谷は陳開山の西麓をいふ、坂浜村に通して丹後谷なり、往古当地は一面に芦茂りて、其中に冬季より芦さかえり、土地の人正月七種にハその芦を摘みて粥等入れて食するを例とす、其後近隣

の人思ひ思ひに開きて田地になせしといふ（今尚ホ芹場の称あり）、又平尾名物の一ツは此谷の蜚ホタルにてあり、山麓より一体は清水湧出し、冬季より水暖き故か、奇異なるにハ蜚早生してますます殖生し、群をなし夜も尚昼の如し、故に蜚沢の名称あり（丹後谷ハ名物多し審二記す）田芹、蜚、田螺、款冬、蟪、鰻、鰻

一、字馬場 今の字七号日吉神社の西つ、きの畑原をいふ、元は此神社を山王権現と崇めり、故に山王原ともいふ、この社へ当村の農馬を持ちしもの、年々正月二日に健康を祈るため参拝なさしむ、其折此原にて奉納競馬を行ふ、故に字馬場の称あり、明治の初年迄これを行ひたり

一、字寺谷 現今坂浜にある新義真言宗岩船山高勝寺ハ、古老の口碑を聞くに往古は平尾の寺谷に在りしといひ、又中古寺谷の山林を開墾せしに土台石に類似したる石多く出たりといふ、又其寺の門前百姓と唱うる農家も在しといふ、坂浜に移転したるハ教徒の數多き故なりと、此說確証なし、纂者其信偽ハ知らず

一、平尾農馬治療所 明治改正字七号六百廿七番地ニアリ、元トハ除地ナリ、文化の頃新設なしたるものにして、月に一回ツ、獣医を呼ひて農馬の治療をするを例とす、其頃当村に農馬の頭數三拾頭を越へたるといふ、明治二年之を廢す

一、助郷（助郷とは大名衆江戸へ下り上りの時、其荷物を運送する人夫に出る村々をいふ）平尾は甲州街道布田駅へ出る組合村の内にて、布田に駅役場ありて通達す、其場合にハ弁当を携へて夜中行きて其場に待つ、江戸へ上りは高井戸駅まで、下りハ府中駅迄荷物、

又駕を運ひたるなり、明治初年迄此事あり、後に廃しとなる

○

○明治元年以来之記事

○一、立志小学校 代は維新と変り、従来の藩屏を廢して府県を置き、爾来万物の变革ありて、明治五年初めて学制を布かれ、明治六年六月坂浜・平尾にて小学校を設立して坂浜宝蔵院に仮校を置き、校名を立志小学校と名づく、後に本校を建設し、大正五年高等小学を併置す

○一、平尾補助道

○平尾道ハ延長一、二二九五〇、平均幅員一五〇、坪数一、六九四〇にして、稲城村坂浜にて原町田往還より分岐し、同村平尾にて町田道に接す、大正四年六月調

○町田道ハ延長五、七九一〇〇、幅員一五、坪数一〇、四二三八にして、稲城村矢野口にて府中往還より分岐し、神奈川県に出て平尾に入り、再び神奈川県を出て鶴川村広袴に入り、大蔵にて日野往還に合し、更に同所にて別かれ、町田町本町田にて町田往還に接す

○平尾地内延長（平尾道ハ二百九十七間四尺（町田道延長八百九十九間三尺）許可明治四十三年四月

○一、平尾家数及人口

明治十一年十一月三十日現在調戸籍簿写

一、戸数三拾九戸

一、人口貳百三拾九人

内 男百十六人

女百二十三人

○

○一、菩提寺片平村修広寺

離檀婦檀ノ事

菩提寺は元和頃より明治拾二年に至る凡三百年間、都筑郡片平村曹洞宗夏菟山修広寺にて平尾一村檀家なりしが、明治十二年故ありて離檀なし、又明治四十二年婦檀す、其間三十年神葬を執行なしたり

婦檀契約書

東京府南多摩郡稲城村平尾一統ハ、都筑郡片平村修広寺檀家ニ罷在候処、今回婦檀ノ協議相整ヒ、双方総代人立会ノ上、左ノ条件ヲ締結ス

一、修広寺修繕、或ハ宗教ニ関スル費用ノ負担ハ、稲城村平尾ニ限り随意ノ寄附トス

右契約之通り相違無之ニ付、証書式通ヲ作成シ、各宅通ヲ保管ス

明治四拾貳年四月十四日

修広寺住職

山崎雄仙○印

右寺総代人

六名 ○印

平尾総代人

四名 ○印

(平尾帰檀セシ者三拾七名)

○平尾産物

- 一、米 一、麦 一、甘薯 一、野菜類
- 一、炭 一、真木 一、竹 一、木材類
- 一、生糸 一、繭 一、柿 一、栗
- 一、笋

○平尾青年談話会

平尾青年談話会は、創立は明治二十五年三月十五日稲城村平尾九百六拾三番地に事務所を置く、○会員五拾三

事業

農蚕の研究、風紀改善、貯金、御大典記念事業ニ村社杉山神社檜苗三百本植付、桑園設置
稲城村平尾青年談話会ハ、平尾九百六拾三番地にありて、府中駅より南方二里の一小部落にして、山間交通の便、宜しからず、別天地の状態をなせり、事業としてハ試作場を設置して重要作物の試験をなし、更に肥料及種苗の共同購入をなし、其他農産上の研究、風紀の改善及共同貯金等の実行をなせり

○一、設立年月 明治二十五年三月拾五日

○一、郡農会より選奨サレタル年月日 大正貳年十二月十日

○選奨状及金五円授与アリ

○稲城青年会合同

大正七年二月四日 統一

稲城青年会平尾支部トス

右ハ東京府南多摩郡郡勢一班第一回ノ写

○

○一、生糸揚返所

生糸揚粹所は稲城共同場粹所ト称シ、明治三拾年八月、字坂浜ニ設置シ、鶴見川会社(此会社ハ生糸改良ヲナシテ外国売ノ生糸製造ヲナス目的)の監理の許に輸出生糸を製造する目的の揚粹所なれハ、製糸家揮つて依託^{イタタ}をなせり、又平尾揚返所は其分場として明治卅八年設置シ、同村三号三百拾五番地に水力と人力の両動力にて揚粹八基を据付、平尾揚粹所と号けたり、爰ニ製糸家の加入せるもの六十八(但他村を含む、今尚存続せり(昭和五年記ス))

○一、消防組

一、創立 明治廿貳年二月拾七日(平尾消防組トス、後ニ稲城村ヘ合ス)

一、稲城村 統一組織トナリ、稲城消防組第六部

一、創立ノ時、消防組規約及寄付金等ハ別紙ニアリ

一、消防器械建物字七号六百二十六番地、元ト郷藏の跡ナリ(消防ノ役員及消防夫ハ時々変ルヲ以テ略ス)

○一、字一号滝尻古沢境刈場約定(為取換約定証写)

為取換約定証

一、貴村界接続之田産之義者、從來より我等方ニテ刈取田方之養護致し居候処、猶又今般地押并ニ崖畔等検査ニ際シ、双方立会調査之上、熟談仕り崖畔刈取之儀者從來之通り平尾村隣地所有人ニテ刈取、崖畔ノ現地等ハ被害無之様、証送可仕、尤刈場之義者別紙

図面薄墨色之通り相違無之候、依之為後鑑取為換約定証書、如件、
明治二十年二月三日

福島信次郎○印
氏子総代人

南多摩郡平尾村

鈴木 静輔○印

村界接統地所有人 五名○印

馬場 市郎○印

村総代人 六名○印

白井熊次郎○印

都筑郡古沢村総代人

古沢房之助殿

一、合社ノ件
一、立木及跡地無代価払下ケノ件

(此為取換証ハ古沢村ヨリ入レタル証ハ平尾村ニテ預カリ

アリ、爰ニ書シタルハ古沢村へ入レタル写ナリ)

○一、合社式執行

○石器時代ノ遺物

大正八年十月三拾壹日

当村ニテ発見シタルモノ

○一、杉山神社宮殿改築

(遺物の挿絵)

神社ノ改築ハ大正十一年ニ起工シ、全十三年十二月終了ス、全拾四年

○一、合社

四月三日遷宮式ヲ執行ス

合社ハ内務省訓令ニ無格社及ヒ基本財産、又ハ其他ノ収入ナキ社、又

余興 芝居二日間及煙火等ノ興行アリ

ハ宮殿ノ荒廃シタル社ハ本社ニ合社スベシトアリ、故ニ其訓令ニ基キ

○

左ノ諸社ヲ合社ス

一、宮殿新築工事落成届

無格社 八坂神社

南多摩郡稲城村平尾

全 日吉神社

村社 杉山神社

境内末社 秋葉社

八幡社

右神社與殿及拝殿共新築ノ儀、見積金額ヲ以テ四月二十六日落成
候条、此段及御届候也

大正十二年五月二日

右ノ神社合社ハ、大正八年十一月十五日附ヲ以テ合社届ヲ社掌并ニ氏
子総代人ヲ以テナス

右 社掌 福島信次郎○印

社掌

氏子総代人

鈴木 静輔○印

白井熊次郎○印

馬場 光吉○印

石井松五郎○印

南多摩郡長

藤江陣太郎殿

○

一、神社奥殿・拝殿、明治四十一年勅令第百七十七号ニ依リ登録申請書ヲ併セテ差上ル

大正十二年五月二日

右 氏子総代人

○社格昇進

南多摩郡稲城村平尾

村社 杉山神社

右社全郡稲城村村社ニ昇格ス

大正十三年十二月七日 東京府

(官報ニテ発表アリ)

八坂・日吉ノ社木

右両社ノ社木ハ伐木ナシ、杉山神社改築ノ用材ニ充ツ、残雜木ハ売却

シ、

此総売上ケ代金九百貳拾參円也

内

一、金五百八拾円也 杉山神社基本財産トス

残金ハ神社改築費トナス

一、改築費総計四千六百九拾九円

此訳

金三百四拾參円

金四千三百五十六円

伐木売払残金
氏子其他寄附金

○稲城村供進神社

二月未定

金八円

一、祭日 九月廿三日

幣白料 金拾四円

十一月未定

金八円

○一、杉山神社財産

一、大正十四年貯金六百三拾貳円六拾四錢

(基本金額)

一、地所 字十号千〇八拾八番 山林四畝貳拾歩

字七号七百二十八番 山林八畝貳拾四歩

大正拾四年二月調

○

○一、杉山神社石灯笼

創立三十週記念

奉納 稲城村青年団

平尾支部総員建之

大正十年二月吉日

石工 厚木町

会田清秀

○杉山神社改築記念碑

(記念碑の挿絵)

大正十四年四月建之

改築費奉納連名

碑裡ニ刻ス

○石鳥居額面

(額面の挿絵) 高橋是清書

大正十四年四月新設

奉納者

馬場芳輔

鈴木靜輔

○石鳥居新設

右ノ鳥居新設ハ明治二十三年三月氏子中ニテ建之、明細奉納金連名簿ハ別記ニアリ、大正十二年九月一日大地震ニテ倒壞ス、全十三年ニ修繕シテ再建ナシタリ、旧額ハ不可能トナル、依テ新タニ右ノ額ヲ奉納ス

○一、杉山神社古代ノ御神体発見

昭和三年拾壹月拾壹日

御神体二体

内

一体ハ裡ニ杉山大明神トアリ

又体衣左リ前ナレハ、最モ古代ノ神体ナリト鑑定ス

右二体トモ翌十二日本社内奉祀ス

昭和三年十一月十一日八王子史談会幹事天野佐一郎、坂浜加藤染吉ノ両氏平尾ノ史蹟社寺ノ古器、或ハ古代ノ石器等ノ調査ニ来リ、宝泉寺廢後ノ僧尼ノ草庵ニ藏シ在リタル仏像其他ノ調査ヲナシタル中

ニ、右二体ノ神体発見ス

○

○一、狛一對

大正四年八月建立 (奉納者 黒田尚寛)

○杉山神社改築及社格昇格記念日

毎年四月三日ト定ム

○祝辞

当杉山神社ノ改築ハ、大正十一年ニ起工シ、全十四年竣工ヲナシ、全四月三日神武天皇ノ祭日々トシ遷宮式ヲ行ヒタルノミナラス、社格昇進稲城神社幣帛供進神社トナリタル候幸之ニ越ユルナシ、其ハ杉山神社ノ御神徳氏子一同ノ敬神ノ厚キニ依ルナラントス、本日、又有志諸君相詢リテ、昇格記念会ヲ催フサレ、記念日ヲ永遠ニ伝ヘント御酒ヲ備ヘ祝杯ヲ揚ケラル、ハ本村ノ美事ト言ハスンハ非ラサルナリ、聊燕言ヲ述ヘテ祝辞トス

大正十五年四月三日

前氏子総代人 鈴木靜輔 述

外

有志一同

○平尾共同生系揚返所図

創立 明治三十拾八年八月

改築 大正二年七月

場所ハ字三号三百拾五番地 下ノ川

(生系揚返所の挿絵)

○一、平尾新道開設

靜輔写□印

新道開鑿ハ、昭和三年御大典記念事業トシテ全年二月一日工ヲ起シ、全三月拾五日終工ス

○開通式 昭和三年三月拾五日

○道路 幅壹丈以上

延長九町貳拾參間

内

本線 四百五拾間

梅ノ木線 六拾六間三尺

稻生橋線 四拾六間三尺

一、經費 合計金五千九百三十円十九錢

人足貳百三十四人 外ニ土地ノ寄附アリ

○但金、人足、寄附連名簿（別冊ニアリ）

（記念碑ノ裏ニアリ）

昭和三年三月 稻城村平尾 建之

（御大典記念道路開鑿碑の挿絵）

裏面 鈴木靜輔書

石工 高橋安五郎刻

○平尾新道路略図

昭和三年三月

（平尾新道路略図）

○道路図

南多摩郡平尾村

（道路図）

補助道 平尾道ハ延長二百九十七間四尺

平尾区内 町田道ハ八百九十九間三尺

村ノ周圍 壹里二十町四十間二尺

○一、平尾電灯架設

電灯架設ハ、昭和三年五月電線柱ノ工事ヲ始メ、全年六月拾五日ニ終ル、全月廿壹日点火ス

全六月廿壹日点火執行ス

一、灯数 百參拾○ 電球

内

一、人家 百二十四 五燭

一、社及街灯 四 十燭

一、揚場水車 二 十六燭

一、架設費 七百元

○平尾電線略図

（平尾電線略図）

○祝平尾青年会創立四拾週年（鈴木靜輔）

1 多摩の流れをひかへたる 南武蔵のあた、かく

2 若竹匂ふ我さに 若きわれ等の集ひあり

3 豊かに煙る土の香に 親しむ業に目覺よと

4 高く尊とき野の叫ひ 我等のつどひ力あり

5 堅き誓ひを守りつ、 春といそしミ秋とへき

6 輝く歴史四拾年 我等のつどひ光りあり

7 あ、此光りこのちから つもる努力の精凝りて

8 木の香あたらし我倶楽部 我等のつどひ望ミあり

9 我等の胸に希望満ち 我等の前途かゝやけり

10 幸ある今日の記念日よ うれしき今日の祝ひ日よ

昭和六年三月十三日〇印

〇

公会堂標札

(平尾公会堂標札)

昭和六年三月

鈴木静輔書〇印

〇平尾公会堂

青年倶楽部

平尾公会堂ハ戸主及其他ノ有志寄附、又青年団ノ金円人足等ノ寄附ニ依リテ、昭和六年二月一日起工シ、全三月十式日竣工ス、翌十三日落成式ヲ挙行シタリ、余興青年男女ノ手踊、其他、浪花節等アリ

昭和六年三月十三日

〇一、経費 金六百〇八円九拾貳銭

人足四百〇貳拾八人

外ニ品類アリ

寄附者連名明細簿ハ別冊ニアリ

(平尾公会堂正面略図)

〇一、平尾附近ノ電車開通

〇一、小田急電車開通ハ、昭和二年二月一日

〇一、南武電車開通ハ、昭和三年十一月二日

〇平尾消防組規約

平尾消防組規約

第一条 当組ハ、明治二十二年二月十七日、平尾中一同協議ヲ以テ組織シ平尾消防組ト称ス

第二条 本区及ヒ坂浜・栗木・五力田・古沢・金程・細山ノ六区ヲ以テ消防区域トス

第三条 当組消防器械所ヲ平尾区字七号六百二十六番地ノ内ヲ借り設置ス

第四条 当組ハ消防ヲ主意トスルカ為ニ非常ノ際ハ組員一同速ニ馳附尽力スヘキコト

第一項 非常ヲ認シ人ハ速ニ梵鐘ヲ鳴ラシ通知スヘシ、若シ鐘色通知ノ行届カサルトキハ消防掛注意スヘシ

第二項 非常通知ノ際ハ速ニ器械所ニ至リ器械ヲ運搬シ、出ツルノ員数アレハ器械ヲ運搬スルコト

第三項 第四条ノ場合ニ至ルモ止ヲ得サル事故アルトキハ、消防掛ヘ其不参スヘキ事柄ヲ届ケ出ツ可シ

第五条 当組ノ役員ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 平尾消防掛 二名

第二 平尾消防器械掛 六名

第六条 平尾消防掛ノ権限ハ、当組一切ノ事務ヲ総理シ、器械掛及組員ヲ指揮シ、猶義捐金等ノ事ヲ取扱フ、若シ止ヲ得サル事故アルトキハ器械掛之レニ代ルコト

第七条 平尾消防器械掛ハ消防掛ノ指揮ニ拠リ、第四条第二項ノ器械

運搬、又ハ消防場ニ臨ミ器械運轉ニ注意シ、且器械一切ヲ守護シ、器械引取ノ後器械ヲ掃除シ、水送管ヲ乾シ器械置場ヘ蔵ムヘキコト
第壹項 器械掛ハ平時ト雖乾燥シテ不用トナル等ノ器械ハ時々手入スヘキコト

第八条 平尾消防掛ハ上下一名ツ、組員一同ノ投票ヲ以テ定、年限ハ滿二ヶ年トシ、更ニ改撰スルモノトス、但シ再撰スルモ妨ナシ

第九条 平尾消防器械掛ハ上下三名ツ、二分チ、抽籤ヲ以テ当主ヨリ右ヘ順序ニ定メ、年月日ノ長短ニ抱ラス、第七条・本条ノ場合ヲ務メシ上ハ、速ニ器械掛ノ提灯ヲ次ヘ送ルベシ

第十条 当組内ニテ万一居宅ノ火災ニ掛ル時ハ、当組中ヨリ酒半駄・握飯式駄ヲ義捐スルコト

第十一条 消防器械修繕費消防器械置場修繕費消防器械置場借地料消防費当組内義捐料慰勞金賞与料ハ、平尾区會議員ノ臨時会ノ決定ヲ得テ徵集スルコト、但シ器械置場借地料第一期分ハ、消防器械寄附金ノ内ヨリ支弁スルコト

第十二条 前三条ノ器械置場借地料ハ、明治二十二年二月十七日ヨリ向フ明治三十二年一月迄滿十年間ヲ一期トシ、金何〇ト約定シ、前金ニテ納ムヘキコト、但シ別紙約定書ヲ取替置コト

第十三条 他村ニ対スル義捐金ハ、当組一同平等ニ負担スルコト
第十四条 平尾消防掛滿期ノ節ハ、謝状ヲ呈シ慰勞トシテ金壹円ヲ呈スルコト

第一項 前第四条ノ際ニ臨ミ、拔群ノ功績ヲ挙げタル者アルトキハ、賞状ヲ呈スルコト

第二項 此規約ニ違背スルモノハ、違約科料金式拾五錢ヲ納ムベシ、若シ是レヲモ弁ヘサレトキハ、規約名簿ヲ除名スルコト

第十五条 此ノ規約ハ實際不都合ヲ生スルトキハ、組員一同協議ノ上更正加除スルコトヲ得

右之通決定候也

明治貳拾貳年式月拾七日

平尾区

黒田案五郎〇印
黒田 磯吉〇印
黒田 嘉三〇印
宮田丑太郎〇印
粕谷 精吉〇印
粕谷 薰吉〇印
宮田八十八〇印
馬場 作郎〇印
鈴木 謹三〇印
馬場 市郎〇印
馬場定五郎〇印
馬場金太郎〇印
馬場庄五郎〇印
鈴木邦五郎〇印
鈴木 昶輔〇印
鈴木 静輔〇印
鈴木鉄五郎〇印

鈴木 弥八〇印

番場 喜六〇印

鈴木友二郎〇印

白井久次郎〇印

白井吉五郎〇印

番場 森三〇印

番場七五三三〇印

白井熊二郎〇印

白井次郎左エ門〇印

白井信次郎〇印

白井文次郎〇印

石井忠二郎〇印

石井 広吉〇印

石井松五郎〇印

石井良之助〇印

石井喜太郎〇印

石井 善郎〇印

石井伝二郎〇印

石井郡次郎〇印

石井七五郎〇印

石井助左エ門〇印

黒田尚寛代

上組 平尾消防長

下組 平尾消防長

勤儉規定

平尾区

勤儉規定

第一条 此ノ規定ハ平尾区全体ノ確守スベキモノトス

第二条 勤儉ノ実ヲ揚クルガ為メ、左ノ規定ヲ執行スルコト

第一 新年元旦ノ御慶ハ鎮守杉山神社頭ニ行フテ、従来ノ近隣回礼

ハ廢スルコト

第二 入営及除隊兵士ノ送迎ハ、従来ノ方法ヲ廢シ、区内総代二名

ヲ以テ送迎スルコト

第三 床上祝ハ廢スルコト

第四 疱瘡見舞ハ廢スルコト

第五 婚礼ノ式ハ飲食膳部ノ類簡易質素ヲ旨トスルコト

第六 講中御目出度申ハ略スルコト

第七 嫁婿振舞ハ廢スルコト

第八 嫁婿三ツ目祝配り重ハ廢スルコト

第九 婚礼吸物ハ五ツ以下ノコト

第十 次目ハ婿ハ区内一般、嫁ハ講中内一般ノコト

第十一 新客披露ハ組合内ヲ限リトシ、進物ハ廢スルコト

第十二 新客ノ馳走ハ略スルコト

第十三 三月節句ニ組合内ニ菱餅ヲ配ルハ廢スルコト

番場 喜六〇印

鈴木 昶輔〇印

石井松五郎〇印

第十四 生子三ツ目祝ノ配リ重ハ惣領一人ニ限ルコト

第十五 子抱ノ祝儀ハ惣領一人ニ限ルコト

第十六 孫祝ハ惣領ニ限り質素ニ行フコト

第十七 三ツ七ツ祝ハ内祝ニスルコト

第十八 組合内破魔弓羽子板雛幟等ノ贈物ハ廃スルコト

第十九 普請中酒ハ胴搗棟上葺籠ノ外ハ用ヒザルコト

第二十 葬祭供養ノ膳部ハ質素ヲ旨トシ、酒ハ親ノ椀ニテ一回ヲ限

リトスルコト

第二十一 七日ノ法祭ハ略スルコト

第二十二 葬祭供養ノ引膳ハ廃スルコト

第二十三 同蒸物配リ重ハ廃スルコト

第二十四 集会ハ通知ノ日時ヲ堅ク守リテ、必ズ遅刻スルコトナク、

抛ナキ不参ハ必ラス不参届ヲ出スコト

第二十五 組合内新盆ノ贈品ハ廃スルコト

第二十六 備荒貯蓄ノ方法ヲ起スコト

第二十七 風祭菴祭ハ質素ニ執行スルコト

第三条 此ノ規定ハ平尾区総会ノ上決定スルニアラザレバ、改正増補

スルコトヲ得ズ

第四条 此規定ハ決定ノ日より実行スルモノトス

右 明治三拾五年四月二十日決定候事 平尾区

大正十四年九月三十日協定

勤儉奨励稲城村実行委員会決議事項

勤儉奨励稲城村実行委員会決議事項 大正十四年九月三十日協定

本村ハ住民ノ生活状態ニ鑑ミ祝賀儀式葬儀贈答等ニ関シ、特ニ従来ノ弊習アルヲ認ムルヲ以テ之カ実行規約ヲ定メ、左記方法ニ依リ極力改善ヲ期センス

一、各大字ニ於テハ、本会ノ定ムル期約ニ基キ、其部落ノ風習ヲ参酌シ、更ニ規約ヲ協定スルコト

二、規約ノ実行ニ関シテハ区長字総代委員等ノ機関ニ依リ処理セラル、様、適當ノ方法ヲ設クルコト

三、規約協定ノ上ハ、直ニ村長ニ報告セラル、コト

冠婚葬祭其他ニ関スル実行規約

結婚出産其他祝ニ関スル事項

一、結婚其他ノ儀式ニ於ケル服装ハ、身分ニ応シ簡素ヲ旨トスルコト

二、祝宴ハ分度ヲ守リ、質素ヲ旨トシ、招待客ハ親近者ニ限ルコト、

但夜十二時ヲ限度トス

三、披露会ノ席上着換ヲ廃スルコト

四、破魔弓羽子板節句幟雛等ノ贈答ハ姻戚者及証人ノ外ハ之ヲ廃スルコト

コト

葬儀ニ関スル事項

一、霊前ノ供物ハ質素ヲ旨トシ、造花ノ贈呈引菓子ハ簡素ニシ、若シ

クハ之ヲ廃スルコト

二、出棺並ニ儀式ノ時間ハ必ズ勵行スルコト

三、葬式ハ一切酒類ヲ禁ズルコト

四、葬式ノ前後ノ食事ハ質素ヲ旨トシ、親族并ニ葬儀係等ニ限ルコト

病氣火災天災等見舞及諸贈答ニ関スル事項

一、見舞ハ至誠ヲ以テ為シ、無益ノ贈物ハ之ヲ避クルコト

二、見舞ヲ受クル家ニ在リテハ、饗応セザルコト、又床上其他ノ返礼ハ之ヲ避クルコト

三、一般ニ贈答ノ場合ハ實質ヲ旨トシ、外形上ノ虚飾ヲ避クルコト

四、形式上ノ手土産交換的ノ贈答ハ、之ヲ避クルコト

兵士入退営ニ関スル事項

一、入退営者ノ服裝ハ華美ニ流レザルコト

二、入退営ノ際ハ氏神ニ於テ奉告式ヲ行フコト

三、歡送迎者ニハ一切ノ饗応ヲ為サザルコト

四、入営者ニ対シテハ、字内ニ於テ応分ノ驢ヲ為スコト

五、入退営ノ歡送迎ニハ軍人分会旗及青年団旗ノ外、絶対ニ用ヒザルコト

六、入退営者ノ祝宴ヲ廢スルコト

七、退営者ノ土産物ハ之ヲ廢スルコト

年首ニ関スル事項

一、年末年始ニ於ケル形式の贈答品ハ廢スルコト

二、新年ノ松飾ハ勉メテ簡素ニシ、各戸必ズ国旗ヲ掲揚スルコト

宿題

一、結婚出産祝賀紀念トシテ一人前膳部ヲ見積リ、鎮守社及教育基本財産等ヘ寄付スルコト

二、葬儀節約ニ依ル費用ノ内、身分ニ応ジ菩提寺又ハ村基本財産ニ寄附スルコト

大正十四年十月協定

勤儉奨励実行規約

稻城村平尾区

冠婚葬祭其他ニ関スル実行規約

△結婚出産其他祝ニ関スル事項

一、結婚其他ノ儀式ニ於ケル服裝ハ、身分ニ応ジ簡素ヲ旨トスルコト

二、祝宴ハ分度ヲ守リ質素ヲ旨トシ、招待客ハ親近者ニ限ルコト、但

夜十二時ヲ限度トス

三、披露会ノ席上着換ヲ廢スルコト

四、嫁婚振舞ハ廢スルコト

五、嫁婚生子ノ三ツ目配重ハ廢スルコト

六、婚礼ノ吸物ハ五ツ以下ノコト

七、次目ハ婿ハ区内一般嫁ハ講中内一般ノコト

八、新客ノ馳走及進物ハ廢スルコト

九、子抱ノ贈物ハ廢スルコト

十、破魔弓羽子板節句幟雛等ノ贈答ハ、姻戚者及証人ノ外ハ之ヲ廢スルコト

十一、孫ノ祝ハ惣領一人ニ限り質素ニ行ヒ、三ツ七ツノ祝ハ内祝ニスルコト

十二、普請中酒ハ棟上及葺籠胴搗ノ外用ヒザルコト

△葬儀ニ関スル事項

一、霊前ノ供物ハ質素ヲ旨トシ、造花ノ贈呈引菓子ハ簡素ニシ、若シクハ之ヲ廢スルコト

二、出棺並ニ儀式ノ時間ハ、必ズ勵行スルコト

三、葬式ハ一切酒類ヲ禁ズルコト

四、葬式ノ前後ノ食事ハ質素ヲ旨トシ、親族并ニ葬儀係等ニ限ルコト

五、右葬祭ノ後七日十日等ノ法祭会ヲ略儀ニスルコト

六、組合内ノ新盆ノ贈答ヲ廃スルコト

七、年季法要ハ質素ニシ之ヲ行フコト

△病氣火災天災等見舞及諸贈答ニ関スル事項

一、見舞ハ至誠ヲ以テ為シ、無益ノ贈物ハ之ヲ避ケルコト

二、見舞を受クル家ニ在リテハ饗応セザルコト、又床上其他ノ返礼ヲ避クルコト

三、一般ニ贈答ノ場合ハ実質ヲ旨トシ、外形上ノ虚飾ヲ避クルコト

四、形式上ノ手土産交換的ノ贈答ハ之ヲ避クルコト

△兵士入退営ニ関スル事項

一、入退営者ノ服装ハ華美ニ流レザルコト

二、入退営ノ際ハ氏神ニ於テ奉告式ヲ行フコト

三、歓送迎ハ区内惣代二名ヲ以テ行フコト

四、歓送迎者ニハ一切ノ饗応ヲ為サザルコト

五、入営者ニ対シテハ字内ニ於テ応分ノ驢ヲナスコト

六、入退営ノ歓送迎ニハ軍人分会旗及青年団旗ノ外、絶対ニ用ヒザルコト

七、入退営者ノ祝宴ヲ廃スルコト

八、退営者ノ土産物ハ之ヲ廃スルコト

△年首ニ関スル事項

一、新年元旦ノ御慶ハ鎮守ノ社頭ニ行フコト

二、年末年始ニ於ケル形式の贈答品ハ廃スルコト

三、新年ノ松飾ハ勉メテ簡素ニシ、各戸必ズ国旗ヲ掲揚スルコト

四、新年節会ノ馳走ハ成ルベク質素ニスルコト

△宿題

一、結婚出産祝賀記念トシテ一人前膳部ヲ見積り、鎮守社及教育基本財産等へ寄附スルコト

二、葬儀節約ニ依ル費用ノ内、身分ニ応ジ菩提寺又ハ村基本財産ニ寄附スルコト

右規約ハ大正十四年十月十五日ヨリ実行スルコト

昭和六年二月

七十八歳

編者 鈴木静輔

□印 □印

